

科目名		授業形態	担当教員名	
衛生・公衆衛生		講義	新庄 文明	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
疾病の発生予防（一次予防）、早期発見と早期対処（二次予防）、進行阻止とリハビリ（三次予防）の各段階を通して、個人の生涯、集団の規模、地域の特定に応じた、健康リスクを軽減する方法論を習得する。科学的な考え方を育み、地球規模の健康問題に対する理解と、保健・医療・福祉における専門家の役割を理解し、問題発見から問題解決を見据えた態度・習慣を身につけ、個人や地域の特性に応じた実践を担う判断力、生命と人格を尊重した健康政策と対人関係を形成しつつ問題を解決する能力を身につけることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 健康の定義と予防原則を理解する。 2. 環境/食品と健康の関係を理解する。 3. 感染症の予防対策を理解する。 4. 地域保健の組織と方法を理解する。 5. 母子/学校保健の重点を理解する。 6. 産業と成人保健の方法を理解する。 7. 高齢者の保健と福祉を理解する。 8. 災害時歯科保健の課題を理解する。 9. 精神保健の現状を理解する。 10. 国際保健の課題を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	予防医学という考え方の原則とその背景 （1章）			
2	衛生統計・人口ならびに健康の指標 （2章）			
3	環境の健康影響と環境保全対策 （3章）			
4	疾病の原因と予防手段をさぐる方法としての疫学の考え方 （4章）			
5	感染症（1） 感染と感染予防 （5章）			
6	感染症（2） 感染症と院内感染予防 （5章）			
7	食品と健康 栄養確保と食品衛生 （6章）			
8	生活習慣と健康 （7章）			
9	地域保健の組織とその進め方 （8章）			
10	母子保健：母性保護と育児（9章）			
11	学校保健：学校保健と保健教育 （10章）			
12	地域と職場における成人の健康管理 （11章・12章）			
13	老人保健と老人医療 （11章）			
14	介護予防と老人福祉 （11章）			
15	こころの健康と精神衛生 （13章）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学 第2版		日高勝美 他	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
備考				